46 玉光堂の腰かけの松

元亀年中（一五七〇～一五七二）、葦名盛氏が、会津本郷町の大川の西にある向羽黒山に、お城を築きました。そのとき、糟尾宗頤という医師を連れて来て、住まわせました。そこを、それから宗頤というようになりました。弘化二年にあちこちに置いた休み石には、「宗頤町」と印されています。

また、お弓新田と俗に言っている上荒井新田の辺には、お弓隊を住まわせたところから、お弓新田というようになったといいます。

糟尾宗頤が守り本尊の極楽地蔵尊は、大同年中徳一大師の作といい伝えられており、宗頤におまつりしてありました。

ところが、次郎水といわれる大洪水が、寛永年中にあり、地蔵尊をまつってあったお堂